

学校だより

学校教育目標 「未来をきりひらこう！ やさしさいっぱい えがお輝くわたしたち」

本物にふれること

副校長

長かった夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。ご家庭や地域で過ごした子どもたちは、普段の学校生活ではできないようなことを体験し、たくさんの思い出をつくることができたことと思います。

私自身は山形にある実家に帰省することが夏休みの恒例となっています。帰省すると毎年必ず実家近くの海に出かけます。海といっても砂浜のある海水浴場ではなく、ほとんど人気のない岩場に行って、シュノーケルと水中眼鏡を付けてひたすら泳いだり潜ったりします。海の透明度がとても高いため、水中ではかなり遠くまで見渡すことができ、数メートル先の海底付近を泳いでいる鯛やメジナもはっきりと見ることができます。こうしているとあっという間に時間が過ぎていきます。例年こんな感じなので家族には半ば呆れられていますが、子どものころから海や川でこうして夏休みを過ごしてきた自分にとっては、これをやらないと夏休みじゃないという感じです。

自分の子ども時代と比べて、今の子どもたちの放課後や休日の過ごし方は大きく様変わりしました。自然の中や屋外で遊ぶ時間は減少し、塾や習い事、またはスマートフォンやゲームに費やす時間が大幅に増加しているように見えます。子どもたちの周りには物や情報が溢れ、どんな情報もネットで検索ができたり、バーチャル空間で仮想体験ができたりする時代になりました。しかしながら、こうした時代だからこそネットやメディアを通じた「間接的な体験」やバーチャルな空間での「疑似体験」だけでなく、子どもたちが本物に触れることができる「直接体験」を大切にしたいという思いが強くなります。子どもたちが感覚を総動員して身体全体で対象に働きかけ、関わることは、感性を最大限伸ばす可能性があります。国立青少年教育振興機構が行った調査研究によると、自然体験や生活体験が豊富な子どもほど、自己肯定感や道徳観、正義感が高い傾向が見られるとの調査結果もあります。

本校では、4年生が野島宿泊体験学習を、5年生は三浦宿泊体験学習を行います。そこでの様々な体験や他者との関わりを通して、たった2日間でも子どもたちには少なからず変容が見られます。体験学習から帰ってきたお子さんをどこか一回り大きくなったように感じた保護者の方もいらっしゃると思います。また、こうして育まれた様々な力は、すぐにはその効果が現れなくとも、この先困難が生じたときに知らず知らずのうちに生きてくるのかもしれません。

宿泊体験学習のような自然体験だけでなく、音楽や演劇、伝統芸能に触れ合う文化芸術体験や、職場体験やボランティア活動、国際交流などの社会体験活動など、これからも子どもたちが本物に触れる機会を大切にして、子どもたちの社会を生き抜く力を育てていきたいと思います。



野島宿泊体験学習でのビーチコーミング

飼育・栽培ボランティアの皆さまありがとうございました

夏季休業中、ウサギのお世話や植物の水やりなどを、保護者および地域のボランティアの方にお願いました。ボランティアのみなさんのご協力のおかげで、動物や植物も元気に夏を過ごすことができました。教職員一同、本当に感謝しております。ありがとうございました。